福島第一原子力発電所現地確認報告書

１　確認日

令和８年８月２４日（月）

２　確認箇所

多核種移送設備建屋（図１）

３　確認項目

多核種除去設備等処理水の試料採取状況

４　確認結果の概要

東京電力では、多核種除去設備等処理水（以下「ＡＬＰＳ処理水」という。）の海洋放出に当たり、希釈前のＡＬＰＳ処理水の放射性核種濃度や水質を測定し、トリチウム以外の放射性核種濃度が法令上の基準以下となっていることを確認している。また、トリチウムについても、ＡＬＰＳ処理水を海水で希釈した放流水について、法令上の基準（６０，０００Ｂｑ／Ｌ）を下回る運用目標（１，５００Ｂｑ／Ｌ）を設定し、当該基準値未満であることを確認した上で海洋放出を行っている。

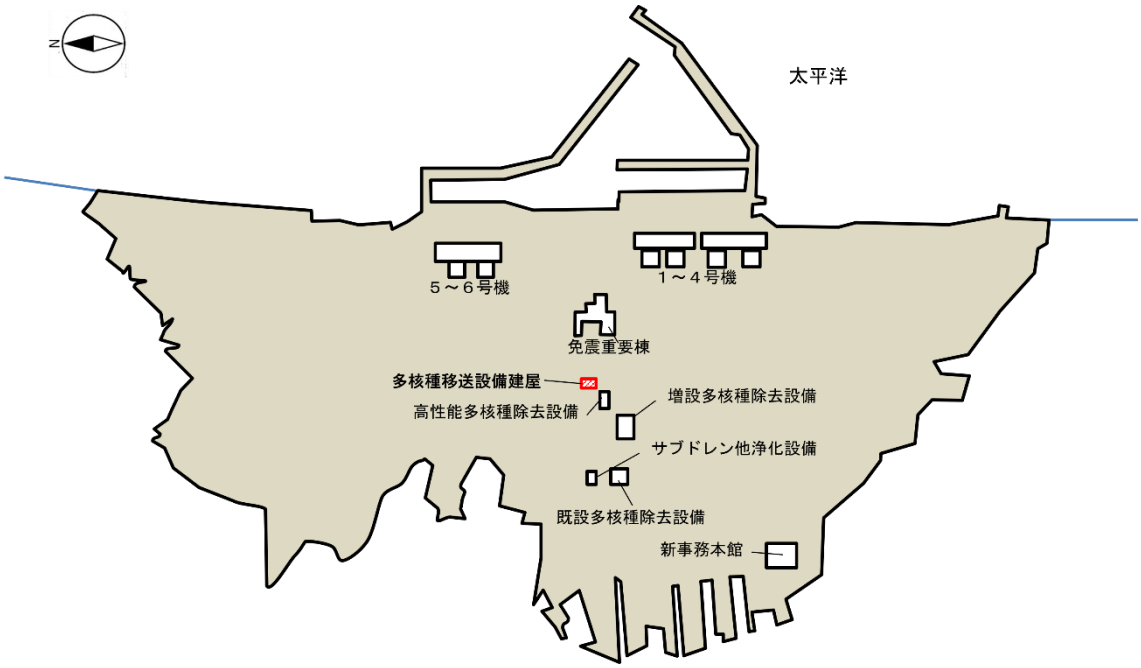
今回、ＡＬＰＳ処理水の第２４回目（令和８年度第６回目）※1の放出に向け、放射性核種濃度等の測定に係る希釈前処理水の試料採取（サンプリング）が多核種移送設備建屋（以下「建屋」という。）において実施されたことから、その状況を確認した。（前回確認：令和８年７月１６日）

※１　ＡＬＰＳ処理水放出（第２４回目）：Ｈ２エリアＢ群及びＫ１エリアＣ／Ｄ群のタンクに貯留しているＡＬＰＳ処理水を対象としている。なお、サンプリングは、測定・確認用タンク（Ａ群）に移送完了後、循環攪拌運転を行った上で実施している。

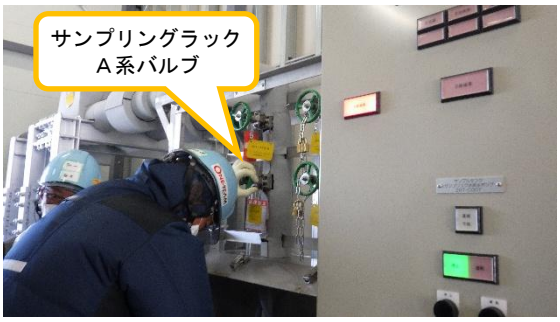
・サンプリングはサンプリングラインＡ系から実施され、関係者により作業内容の復唱や指差呼称を行いながら、必要量の試料が安全かつ確実に採取されていた。また、作業中における外部への漏えいや飛散等の異常は認められなかった。（写真１）

・サンプリング後の試料については、容器への水の付着や容器からの水の滴下の有無を確認するなど慎重に取り扱われており、容器からの漏えい等の異常は認められなかった。（写真２）

・試料容器にはラベリング及び封印処置がなされていることを確認した。（写真３）



（図１）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真１①）
サンプリングラックのバルブ操作



（写真１②）
試料の仮置き



（写真２）
サンプリング後の試料容器の拭きあげ



（写真３）
試料容器のラベリング

５　プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。